

# 「棟方志功・崔榮林展をめぐって」

日時：11月10日（土）14：00－16：00 会場：青森県立美術館シアター（入場無料）

崔榮林(チェ・ヨンリム 1916-1985)は、1938年頃、平壤博物館学芸員として赴任していた、棟方志功の青森時代の友人である弘前出身の考古学者・美術家小野忠明の紹介状を携えて来日、棟方志功の画室を訪れ、版画のみならず、民俗的な題材の選択や画風において大きな影響をうけたことが韓国ではよく知られていました。崔は郷里に戻ったのち戦争が終わり、志功との交流は途絶えていましたが、今回の展覧会の調査により遺族のもとで発見された志功の手紙によって、1965年末から文通が復活し、志功の亡くなる年の1975年正月まで手紙のやりとりをしていたことが明らかになりました。最後の手紙の中で、志功は再会が果たせなかったことを残念がり、いつか必ず韓国を訪れ、お会いしたい、「何十年の友情は心の中におたがいに通ってゐますから、大丈夫です」と書いています。

今回の展覧会は、この二人の交流を軸に、両国を代表する二人の画家を紹介する展覧会です。青森県立美術館で開催された後、韓国国立現代美術館の分館であるソウル中心部の徳寿宮(トクスグン)美術館で2008年1月22日から3月30日まで開催されます。

欧米の美術の学習や単なる自国の伝統の継承にとどまらず、伝統を咀嚼しながら国際的に評価される普遍的かつ独創的なスタイルを創造した棟方志功と、その影響をうけて広く自らの民族の心に根ざした美術を志した崔榮林という、それぞれの国の独自性とともな普遍性を志向した日本と韓国の画家。今回の二人展は、両国の美術への理解を深め、文化交流の促進を図るために企画されたものですが、学術的側面からも、近年研究が進んでいるアジアの近代美術の相互交流や日本と韓国の近代美術の交流関係について具体的な事例にもとづき光をあてる貴重な機会です。

今回、共同企画館の国立現代美術館(韓国)徳寿宮美術館の館長・担当学芸員を交えて開催されるシンポジウムでは、棟方志功・崔榮林の関連を軸に、二人を結びつけた小野忠明が指導した若者達が中心になって平壤につくられた美術団体「珠壺会」の意義など、韓国と日本の近代美術について考えます。

## 《コーディネーター》

三好徹 (青森県立美術館美術企画課長)

## 《パネリスト》

崔銀珠 (徳寿宮美術館館長)

奇恵卿 (徳寿宮美術館キュレーター)

武田公平 (棟方志功記念館館長補佐)

池田亨 (青森県立美術館学芸員)



上/棟方志功《華翁頌》1954年 青森市(棟方志功記念館寄託)蔵  
下/崔榮林《佛心》1967年 国立現代美術館(韓国)蔵

また、12月2日(日)には 講師に日本民藝館学芸部長 尾久彰三氏を  
招き、棟方の師であった柳宗悦と棟方が、どのように朝鮮の芸術を受容し、  
どのように考えていたかを探る特別講演会を開催いたします。

## 特別講座

# 「柳宗悦と棟方志功の朝鮮芸術観」

講師 日本民藝館学芸部長 尾久彰三氏

日時：12月2日(日) 14:00-15:30

会場：青森県立美術館シアター(無料)

## 棟方志功・崔榮林展

### ■会期

2007年11月10日(土) - 12月24日(月)

※11月26日休館

### ■開催時間

9:30 - 17:00 (入館は16:30まで)

### ■入場料金 (前売りは各100円引き)

棟方志功・崔榮林展 + アレコ

一般 800円、高大 560円、小中 320円

棟方志功・崔榮林展 + 常設展

一般 1,200円、高大 800円、小中 400円